

元気に打って出よう！ (近畿地協第9回定期大会)

10月25日(土)、近畿地協第9回定期大会が京都市「ホテルビナリオ嵯峨嵐山」で開催され、代議員、役員など32名が参加しました。

岡野議長は「大企業優先のアベノミクスで、労働の劣化が進み、女性の『活躍』を売りにして登用した5人の女性閣僚も次々にコンプラ違反で辞任に追い込まれるなど、早くもメッキがはがれている。労働組合が頑張って打って出れるような元気な大会にしていこう」と挨拶しました。

続いて来賓として、地元の京都総評・梶川事務局長、京商連・久保田会長、金融労連・田畑書記長から、政治・経済・職場の情勢をふまえた激励の挨拶を受けま



(写真・議案提案を行う阿部事務局長)

した。討論では、「職場では新入行員を育てられず、使い捨てにされている」「組合間差別の不当労働行為責任を徹底して追及し、銀行に文書で確認させた」「資料により科学的に経営を分析し優位に労使交渉を進めている」「第三者機関へ持ち込まずに常に自主解決が図れている」「合併以降、100万円の年収ダウンが10年以上続き、何とか貸しを返してもらいたい」「役員報酬が聖域化されている」「残業すると上司が嫌な顔をする」「金融リスク商品を高齢者に売り続けている」「職場で金融労連の機関紙をもとに支店長と対話ができている」「派



(写真・新四役は全員再任)

遣から直接雇用、有期雇用から無期雇用など非正規の雇用確保の運動が前進している。これを賃金などの労働条件面での運動につなげたい」などの報告や思いが出されました。

全議案を満場一致で採択し、新役員を選出した後、車谷副議長が閉会の挨拶とガンパローの音頭をとり、全員でガンパローを三唱し閉会しました。

大会で選出された新四役は次のとおり(敬称略)

議長	岡野 展子(池田泉州銀行従組)
副議長	福井 悦雄(京都北都信金従組)
副議長	森 廉始(金融ユニオン・きのくに)
副議長	松島 照男(金融ユニオン・大阪)
副議長	車谷 薫(滋賀銀行従組)
事務局長	阿部 正巳(京都北都信金従組)
事務局次長	伊藤 宗孝(金融ユニオン・直属)

祝電・メッセージをいただいた労組・諸団体

●大阪医労連●大阪自治労連●大阪労連共済
●国労大阪地本●自交総連大阪地連●静岡中央銀行従組●JM I U大阪地本●滋賀県労連●生協労連大阪府連●全印総連大阪地連●全大阪消団連●全国一般大阪府本●仙台銀行労組●第三銀行従組●大正銀行従組●大商連●金融労連中国四国地協●通信労組大阪支部●金融労連東京地連●奈労連●日本共産党大阪府委員会●同京都府委員会●金融労連北陸地協●南日本銀行従組●りゅうぎんBS労組

以上 25通 ありがとうございました。

怒声がATMコーナーまで

大阪シティ信金の某支店のATMコーナーに朝8時50分頃に入金に行った時のことです。

ATMコーナーと支店ロビーの間のシャッターは、まだ降ろされたままでしたが、シャッター越しに、怒声が聞こえてきました。職場の朝礼で、上司が大声で部下を叱っていることぐらいは、金融機関に勤務した人間なら誰でもわかります。これでは、朝一番「今日も一日がんばろう」という気持ちがいっぺんに萎えて、嫌な気持ちになってしまいます。外部の顧客でもわかるようなパワハラを、内部から指摘できないのは、職場にたたかう労働組合が存在しないからでしょうね

みんなの意見を反映した組合活動めざして

きのくに分会大会

10月11日、和歌山県有田郡で、金融ユニオンきのくに信金分会の第8回定期大会が開催され、組合員14人(昨年15人)が参加しました。

冒頭、辻分会長は、「いま平和が危なくなり、物価上昇や消費税増税に賃上げが追いついておらず、生活も苦しくなっている。職場だけでなく、急変する情勢を学んで色々な運動にも取り組もう」と挨拶を行いました。金融労連本部から参加した田畑書記長は「残業しても残業代を払わなくてよい、非正規労働者は自由に解雇できる、派遣は生涯派遣として使える、等々いままで守られてきた働くルールが次々に破壊されようとしている。労働組合の力が本当に大切になっている。労働組合への参加を増やすには、ひとりひとりの仕事や生活の悩みまで出合っ解決していける場にするのが大切」と連帯の挨拶を行いました。

大会では、「まいどおなじみかわら版」と改名した機関紙発行の重要性や賃金実態調査への協力が呼びかけられ、全議案が満場一致で採択され、新役員を選出しました。

新役員は次の通りです。

分会長 辻 昇三

副分会長 森澤 昌司・太田 典男・川口 和洋

書記長 森 廉始(敬称略)



ブラックバイトに直面

龍谷大学就職ガイダンス

10月27日、龍谷大学で「第9回就職に関する講演会」が開催され、約60人の学生が参加しました。

講演では、中京大学国際教養部の大内裕和教授が「今の学生は、仕送りも減らされ、自由に使える生活費が1日1千円を割りこみ、15年前の半分以下。高収入のはずだった家庭教師のバイト料も我々の学生時代の半分以下の時給1500円にまで落ち込み、学業との両立

を求められる学生が、時間的に自由が利くフリーターの増加でバイト料のダンピング競争に苦しめられている」として、「学生のアルバイトがブラック化し、授業やゼミ合宿に参加できないだけでなく、単位取得にまで大きな影響を与えている」恐るべき実態を報告。

「卒業後も奨学金の返済負担で正社員として就職しても長期にわたって結婚できない状況に陥っている」若者にとって生きづらい社会の現実と日本の将来に厳しい警鐘を鳴らしました。

講演後、金融・公務員・民間企業営業・マスコミ・航空関係の各ブースに分かれて説明や質疑応答が行われ、金融のブースには金融労連・田畑書記長が出席し、「金融機関がブラック企業化しないよう労働組合が頑張っている」職場実態の報告や「あせるな、我慢するな、ひとりで悩みを抱えるな」など先輩としての具体的なアドバイスを行いました。

学園祭を目前に控えながら夕方のキャンパスには例年より学生の姿が少なく、ここ数年増加傾向にあったこの講演会への参加者も昨年を下回る状況が、ブラックバイトに直面している学生の「貧困」を色濃く反映しているのかと痛感させられました。(西日本事務所発)



ボールペンインク切れに激怒する役員

金融機関の職場で発生したできごとを一つ紹介します。金融機関の役員が、店頭で振込用紙に記入していたところ、途中で備え付けのボールペンのインクが切れたのか、文字がかすれてしまい、窓口の女性から「すみませんが、もう一度書き直していただけますか」と言われ、店頭で激怒する事態となりました。

慌てた支店長が、役員の所へ謝罪に。

しかし窓口の女性は、役員だからといって「代筆」をするなど、特別扱いをしなかったことは、むしろ勇氣ある正しい対応ではないでしょうか。

支店長も役員に謝るのではなく、対応した女性に「君の対応は間違っていない。激怒する役員が間違っている。気にするな」ぐらいのことを言ってほしかった。

現場では、毎日、ボールペンのインクを一々点検している余裕などないことを、経営者として肝に銘じて、怒鳴り散らすのではなく、改善策を検討されてはいかげでしょうか。恥を書かせない為に、今回金融機関名を記載しなかった配慮に感謝してもらいたいものです。

(西日本事務所発)